

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

「国民・患者・一般臨床医に対する啓発・広報活動」の報告と今後の方向性に関する提案

研究協力者 長堀正和 東京医科歯科大学附属病院 消化器内科 特任准教授

研究要旨：本活動は、炎症性腸疾患（IBD）の診断・治療・予後・管理等に関する知識等を、国民・患者およびその家族、また、一般臨床医・医療従事者に広く普及することを目的とするものである。本年度、患者および家族に対して、IBDの主に内科治療に関する患者向け冊子（「知っておきたい治療に必要な基礎知識」潰瘍性大腸炎およびクローン病版）を更新し、班員の施設に広く配布した。また、従来、IBD患者の妊娠や出産に関する情報は乏しく、その問題点に答えるために、同様の小冊子（「妊娠を迎える炎症性腸疾患患者さんへ知っておきたい基礎知識 Q&A」）を作成、日常診療に利用されることとなった。今年度中にはこれらの冊子を、研究班ホームページホームページ（HP）上でダウンロード可能とする予定である。

また、先の研究班から継続してきて行われてきた一般医向け研究成果報告会は必ずしも十分な啓発効果は発揮されないと考えられ、今年度は、先の研究班にて作成された「一目で分かる IBD」を近年の画像診断や治療の進歩に合わせて全面改訂（冊子「第二版」）を行い冊子としたものを、前述のHPに公開する予定である。

新難病法のもと、各都道府県毎に難病指定医研修が行われるが、まず千葉県研修において、平成 28 年 1 月 17 日に、この冊子のスライドを用いた講習が行われた。

共同研究者

鈴木康夫

（東邦大学医療センター佐倉病院・消化器内科）

竹内 健

（東邦大学医療センター佐倉病院・消化器内科）

藤谷幹浩

（旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野）

藤井久男

（奈良県立医科大学中央内視鏡超音波部）

中村志郎（兵庫医科大学内科学下部消化管科）

穂苅量太（防衛医科大学・内科）

金井隆典（慶應義塾大学医学部・消化器内科）

る研究成果を、国民・患者およびその家族、また、一般臨床医・医療従事者に広く普及することを目的とする。

B. 研究方法

国民および患者・家族に対する啓発活動としては、先の研究班にて平成 19 年度から全国各地において計 12 回の研究報告会が開催され、合わせて 2100 人を超える参加者に対して報告を行ったが、同様の形式の啓発活動の継続は、非効率と思えた。本年度は、より広範囲の患者や家族の啓発のため、患者向け冊子（「知っておきたい治療に必要な基礎知識」潰瘍性大腸炎およびクローン病版）の改訂を行った。また、IBD 女性患者にとって、妊娠や出産は大きな問題である一方で、研究の困難さから、情報も限られ、一般消化器医における知識も必ずしも十分とはいえないと思わ

A. 研究目的

本活動は、炎症性腸疾患（IBD）の診断・治療・予後・管理等に関する知識、特に本研究班におけ

れ、患者向け冊子（「妊娠を迎える炎症性腸疾患患者さんへ」知っておきたい基礎知識 Q&A）を新たに作成した。

また、一般医に対する啓発活動に関しては、昨年度は、千葉県地区および奈良県地区において、研究成果報告会が開催されたが、同報告会にて使用されていた「一目でわかる IBD」を、近年の IBD 疫学データや画像診断や治療の進歩に沿って、内容の改訂（第二版）を行い、また、本冊子の活用方法を検討した。

（倫理面への配慮）

特になし

C. 研究結果

先の渡辺班において作成された患者向け情報冊子「知っておきたい治療に必要な基礎知識」（潰瘍性大腸炎およびクローン病）の内容に関して検討を行ったが、いずれの疾患においても新薬（抗 TNF- α 抗体製剤やタクロリムスなど）の出現に合わせて、その内容をアップデートし、冊子として刊行した。本冊子は、班員の施設にて患者・家族に対する治療の説明に使用された。

また、IBD 女性患者の妊娠や出産に関する正確な情報を提供するため、小冊子「妊娠を迎える炎症性腸疾患患者さんへ」知っておきたい基礎知識 Q&A」を作成し、班員の施設で患者や配偶者などの家族への説明に使用された。

「一目でわかる IBD」（第二版）の刊行を行い、冊子を班員の施設に配布した。また、同スライドを用いて、平成 28 年 1 月 17 日に千葉県における難病指定医研修の講演にて使用された。

D. 考察

今年度中に、アップデートした患者向け情報冊子「知っておきたい治療に必要な基礎知識」や「妊娠を迎える炎症性腸疾患患者さんへ」知っておきたい基礎知識 Q&A」の研究班 HP 上で公開し、患者および家族が自由にダウンロードし、利用することで、患者および家族の啓発に大きく寄与することが期待できると思われた。特に、小冊子「

妊娠を迎える炎症性腸疾患患者さんへ」知っておきたい基礎知識 Q&A」を活用していくことで、患者が不適切な情報をもとに、治療を自己判断で中止することなどがなくなることを期待したい。今回改訂した「一目でわかる IBD」（第二版）は冊子として班員の施設において使用されるだけでなく、研究班 HP にて公開することで、一般医を対象とした IBD に関する啓発に寄与することが期待できると思われた。また、同時に本研究班にて作成および毎年、改訂されている「潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針」の最新版も同様にホームページ上に公開することで、全国の IBD 診療の均てん化に寄与することが期待された。

E. 結論

国民・患者（および家族）・一般医に対する啓発・広報活動に関して、今後、更新される診療ガイドラインや治療指針も含めて、IBD における研究や診療内容の進歩に伴い、今後も提供する情報を適時、アップデートし、研究班 HP 等にて公開していくことが重要と思われた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Takenaka K, Ohtsuka K, Kitazume Y, Nagahori M, Fujii T, Saito E, Fujioka T, Matsuoka K, Naganuma M, Watanabe M: Correlation of the endoscopic and magnetic resonance scoring systems in the deep small intestine in Crohn's disease. Inflammatory bowel disease. 21(8):1832-1838, 2015
- 2) Matsuoka K, Saito E, Fujii T, Takenaka K, Kimura M, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M: Tacrolimus for the Treatment of Ulcerative Colitis. 13(3):219-226, 2015
- 3) Nagaishi T, Watabe T, Jose N, Tokai A,

Fujii T, Matsuoka K, Nagahori M, Ohtsuka K: Epithelial NF-kB Activation in Inflammatory Bowel Diseases and Colitis-associated Carcinogenesis. Digestion. (in press) ,2015

- 4) 大塚和朗、竹中健人、長堀正和、松岡克善、藤井俊光、齊藤詠子、渡辺 守:【下部消化管:炎症からの発癌】炎症発癌の診断 小腸のサーベイランス. Intestine. 19(4):381-384, 2015

2. 学会発表

- 1) Fujii T, Takenaka K, Kitazume Y, Saito E, Matusoka K, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M: Modifying and validating endoscopic and magnetic resonance scoring systems for the deep small intestine in Crohn's disease. The 3rd Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's and Colitis (AOCC). Beijing. 2015年6月19日
- 2) Fujii T, Takenaka K, Kitazume Y, Saito E, Matusoka K, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M: Modifying and validating endoscopic and magnetic resonance scoring systems for the deep small intestine in Crohn's disease. DDW2015. Washington, DC. 2015年5月17日
- 3) Nagahori M, Fujii T, Saito E, Matsuoka K, Ohtsuka K, Watanabe M, TMDU UC Cohort Study Group: The prognosis of ulcerative colitis patients who are treated with corticosteroid in an academic inflammatory bowel disease center and community hospitals. DDW2015. Washington, DC. 2015年5月16日
- 4) 柴田 勇、荒木昭博、福田将義、岡田英理子、藤田めぐみ、櫻井 幸、根本泰宏、新田沙由梨、野崎賢吾、福島啓太、北畑富貴子、東 正新、大岡真也、土屋輝一郎、長堀正和、中村哲也、朝比奈靖浩、大塚和朗、渡辺 守: Dieulafoy 潰瘍様の内視鏡所見を呈した小腸動静脈奇形の一例. 第101回 日本消化器病内視鏡学会関東支部例会. 東京. 2015年12月12日
- 5) 武市瑛子、大谷賢志、藤井俊光、松岡克善、櫻井 幸、藤田めぐみ、野崎賢吾、福田将義、根本泰宏、井津井康浩、中川美奈、東 正新、土屋輝一郎、大岡真也、長堀正和、渡辺 守、荒木昭博、大塚和朗、柿沼 晴、朝比奈靖浩: 潰瘍性大腸炎に対する inflixmab 投与により間質性肺炎が誘発されたと考えられる一例. 日本消化器病学会関東支部第 337 回例会. 東京. 2015年12月5日
- 6) 竹中健人、大塚和朗、北詰良雄、福田将義、野崎賢吾、岩本史光、木村麻衣子、藤井俊光、松岡克善、長堀正和、渡辺 守: クローン病小腸病変に対するバルーン内視鏡および MRI 所見. 第 53 回小腸研究会. 東京. 2015年11月7日
- 7) 長堀正和、河内修司、花井洋行、山本隆行、中村志郎、渡辺 守、日比紀文: 活動期及び寛解期潰瘍性大腸炎における経口 5-ASA 製剤治療に関する実態調査. JDDW2015. 東京. 2015年10月10日
- 8) 小林小の実、遠藤 南、重田綾子、飯塚和絵、伊東英里、望月奈穂子、酒井英樹、長堀正和、渡辺 守: アザチオプリン投与例における 6-TGN 濃度の検討. JDDW2015. 東京. 2015年10月10日
- 9) 大塚和朗、長堀正和、渡辺 守: 炎症性腸疾患における内科・外科間の治療連携 クローン病治療における生物学的製剤と内視鏡治療・外科手術. JDDW2015. 東京. 2015年10月8日
- 10) 堤 大樹、秋山慎太郎、松岡克善、和田祥城、北畑富貴子、福島啓太、水谷知裕、新田沙由梨、藤井俊光、岡田英理子、大島 茂、岡本隆一、東 正新、土屋輝一郎、永石宇司、長堀正和、中村哲也、朝比奈靖浩、渡辺 守: 鋸歯状病変を合併した潰瘍性大腸炎関連大

腸腫瘍の一例.日本消化器病学会関東支部第
336 回例会.東京.2015.09.26

- 11) 引山智香、大谷賢志、勝倉暢洋、藤井俊光、
松岡克善、水谷智裕、大島茂、土屋輝一郎、
岡本隆一、東正新、永石宇司、長堀正和、荒
木昭博、中村哲也、渡辺 守、岡田英理子、
福田将義、大塚和朗、渡邊 健、石田信也：
クローン病で免疫調節薬による加療中に好
中球減少を認め、自己免疫性無顆粒球症と診
断した一例.日本消化器病学会関東支部第
335 回例会.東京.2015 年 7 月 18 日
- 12) 秋山慎太郎、大岡真也、水谷知裕、松岡克善、
藤井俊光、岡田英理子、大島 茂、井津井
康浩、中川美奈、岡本隆一、土屋輝一郎、柿
沼 晴、東 正新、永石宇司、中村哲也、
長堀正和、荒木昭博、大塚和朗、朝比奈靖
浩、渡辺 守：免疫染色が診断の一助となっ
た肝内胆管癌小腸転移の 1 例.第 100 回 日
本消化器内視鏡学会関東地方会.東京.2015
年 6 月 14 日
- 13) 三代博之、井上恵美、藤井俊光、齊藤詠子、
井津井康浩、岡田英理子、大島 茂、松岡克
善、中川美奈、岡本隆一、土屋輝一郎、柿沼
晴、東 正新、大岡真也、永石宇司、中村哲
也、長堀正和、荒木昭博、大塚和朗、朝比奈
靖浩、渡辺 守：周期的な腹痛・発熱を主訴
とし MEFV 遺伝子変異を認めた否定型家族性
地中海熱の 1 例.第 334 回 日本消化器病学
会関東支部例会.東京.2015 年 5 月 23 日
- 14) 秋山慎太郎、藤井俊光、長堀正和、竹中健人、
齊藤詠子、大塚和朗、渡辺 守：高安動脈炎
に合併した潰瘍性大腸炎症例の検討.第 101
回 日本消化器病学会総会.仙台.2015 年 4 月
25 日
- 15) 齊藤詠子、長堀正和、渡辺 守：難治性潰瘍
性大腸炎の適切な治療選択とは？ 難治性潰
瘍性大腸炎における免疫調節薬使用例の検
討.第 101 回 日本消化器病学会総会.仙
台.2015 年 4 月 25 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- 1 . 特許取得
なし
- 2 . 実用新案登録
なし
- 3 . その他
なし